QR コードを読み取り、令和６年 11 月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。

仲亀（なかがめ）　恭平（きょうへい）
（無会派）

透析患者の不安解消にどう取り組むのか ～透析患者の災害対策に関して富士宮市の現状と今後の対策～

問　注意すべきこと。【食事編】

部長　カリウムやたんぱく質、塩分を多く含む食品は控える。水分の摂取については必要量の目安や摂り過ぎに注意すること。

問　どのような体調不良が起こるのか？

部長　水分過多の場合には、むくんだり、水分が心臓や肺などにたまり、肺の病気もしくは心不全等を起こす可能性がある。

問　避難所の食事管理体制は？

部長　保健師が把握・管理する。能登半島地震の教訓を踏まえ、避難者の病歴を把握できるよう対応していきたい。

問　注意すべきこと。【避難所編】

部長　避難所に入る際には、作成される避難者名簿に自身の病状、治療、心身の状況等について記載していただきたい。

問　注意すべきこと。【事前準備編】

部長

①避難行動要支援者の登録。

②透析カードの携帯。（氏名／緊急連絡先／透析を受けるために必要なデータなどが記載。）

災害時に普段とは異なる施設で透析を受ける場合でも、スムーズに透析を受けることが可能。

問　通院している病院が透析不可能の場合は？

部長　市の災害対策本部からふじのくに防災情報共有システムＦＵＪＩＳＡＮを通じて、県災害対策本部への支援要請を行う。

稲葉（いなば）　晃司（こうじ）
（超党派虹の会）

富士医療圏の 630 問題に富士宮市はどう立ち向かうのか ～地域医療を守るために 2024 ～

問　富士市立中央病院では令和６年４月より救急専門医を配置することとなった。その効果は絶大で医療圏を同じくする富士宮市民にとっても朗報。富士宮市立病院への救急専門医の招聘を考える際に課題となることは何か。

病院長　救急外来に救急課医師を配置することによって救急患者の受け入れがスムーズに行われることは疑いのないことであり、市立病院にとっても救急医の確保は重要事項。年に２回ほど浜松医科大学救急災害医学講座教授を訪問し、また順天堂大学静岡病院救急科と連携して医師の派遣をお願いしている。しかしながら、救急科専門医プログラムを先行する医師が非常に少ないことや、医師一人の派遣では医師一人への負担が大きくなることから、派遣の際にはチームでの派遣となるため、市立病院への派遣は難しい状況。今後も浜松医科大学を含めた多方面への働きかけを行い医師確保に努めていく。

問　市民に私たちは 630 問題を抱える医療圏域に住んでいるということを理解し、認識して救急車の適切な利用について考えてもらうことや、救急かけはしの登録が救命率を上げ、自らの命を守ることにつながることを理解してもらうことで、効率よく 630 問題を改善するための政策展開ができると考えるが、市当局の見解は。

部長　救急車の適正利用について、一般救急講習、普通救命講習の中で周知し、消防本部が実施するイベントでも広報を実施している。救急かけはしは登録により、本人の緊急連絡先、かかりつけ医等の情報が得られることで、病院選定の時間短縮につながっている事案もある。